

長 濱 ゆ う 歌 舞 伎

梶原平三 誉石切

鶴ヶ岡八幡社頭の場

びわ湖舞台芸術フェスティバル

かじわらへいどうほまれのいしきり



御目見得日

8月4日 水 入場料 500円
開場 ● 17:30 ~
開演 ● 18:00 ~

滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール中ホール

大津市打出浜15番1号 TEL077-523-7133

◆配役

梶原平三景時

大庭三郎景親

俣野五郎景久

囚人剣菱吾助

奴菊平

大庭方大名 浜名八郎

同 瀬戸兵内

梶原方大名 戸塚源六

同 錦部八郎

梶原方近習

小姓

同

棒突

同

娘梢

青貝師六郎太夫

片桐 秀樹

山口 忠義

藤田 直美

住田 宗

西村 知子

福永 芳明

田中 重行

川村 洋輔

加藤 巧

沢田 香緒里

加藤 綾

家森 小野花

川村 真里奈

沢田 有佳里

七里 八須子

横田 正

— 長浜子供歌舞伎三役修行塾 —

振付 川村和彦 太夫 西邑粹龍 三味線 下村賀祝

■都合により配役等が変更になる場合がございますのでご了承下さい。

共催／長濱ゆう歌舞伎座

財団法人びわ湖ホール

問い合わせ先

長濱ゆう歌舞伎座

財団法人びわ湖ホール

TEL0749-62-1009 (かわ重)

TEL0749-62-3776 (みのや)

TEL077-523-7136

かじわらへいぞうほまれのいしきり

梶原平三誉石切

鶴ヶ岡八幡社頭の間

あらすじ

鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮の社頭で、平家の武将大庭三郎と弟の俣野五郎が、石橋山の合戦での巧名を自慢しているところに、同じく平家の武将の梶原平三が現れ、勝利の杯を酌み交わします。程なく、刀の飾りを作る青貝師の六郎太夫が、娘の梢とともに家重代の名刀を買ってもらおうと大庭を訪ねてきます。それは、梢の許嫁の為に源氏再興の軍用資金を調達するためでした。大庭は、目利きの梶原に刀の鑑定を頼みます。梶原の「点曇らぬ銘作」との太鼓判を押しますが、信用しない俣野は、人間二人の胴体を切る「二つ胴試し切り」を思いつきます。大庭は直ちに、死罪の科人を二人連れ出すよう命じますが、あいにく一人しかいませんでした。しかし、なんとしても娘の為に金の欲しい六郎太夫は、二つの胴の証文を取りに梢を家に帰した後（実は証文などない）、自分が二つ胴の二つになると申し出ます。試し切りを頼まれた梶原は、気合いを入れて科人を真二つに切りましたが、六郎太夫の縄のところで刀は止まってしまいました。これは、六郎太夫が源氏ゆかりのものと悟った梶原の技でした。梶原の目利き違いをなじって大庭兄弟が去った後、梶原は、名刀の証拠といって父娘を手水鉢のそばへ招き寄せ、二人の影を二つ胴に見立てて刀を振りかぶると、見事手水鉢は真二つ。名刀は、梶原が買うことになりました。思いがけなく名刀を手に入れた梶原と大金を手にした六郎太夫と梢は喜んで家路につきます。

みどころ

「梶原平三誉石切」は通称を「石切梶原」といい、憎まれ役として扱われることの多い梶原景時が主人公となつて、花も実もある颯爽たる武将として登場する作品です。

六郎太夫が持参した伝家の名刀を折目正しく目利きするところからまず見所です。次に「二つ胴」の試し切りで、わざと失敗する梶原の情味も見逃せません。父の危急の場における娘の愁嘆や、敵役の大庭や俣野、道化役囚人呑み助などの役にもそれぞれの見所があります。そして最大の眼目は、石で出来た手水鉢をその名刀で切る「石切」の場面です。石切後の梶原が「剣も剣」と言うところ、六郎太夫が「切り手も切り手」と返す場面は派手な歌舞伎味のあるところです。ここで観客も大向を「役者も役者」とかけると場面はさらに盛り上がります。この外題は、十五代目羽左衛門、初代吉右衛門、初代鷹治郎の三人がそれぞれ魅力ある梶原を演じたことから人気狂言のつととなりました。

長濱ゆう歌舞伎

三年前、長浜市のゆう壺番街商店街振興組合が、商店街に活気を取り戻そうと始めた素人歌舞伎。小学生から六十歳代までの幅広い年齢層の役者やスタッフが参加しています。もちろん大道具や小道具も手作りで公演。昨年十月には、空き店舗を改装し、本拠地となる芝居小屋も手作りしました。

長濱ゆう歌舞伎 びわ湖ホール公演

平成十一年八月四日(水) びわ湖ホール 中ホール
開場／午後五時三十分 開演／午後六時

長 濱 ゆ う 歌 舞 伎